

# 小土鍋

1個

- 【粘土】 ペタライト入土鍋土 白 or 赤
- 【重さ】 2.4kg
- 【手法】 タタラ内型作り 本体 9 mm、蓋 8 mm
- 【装飾】 絵付 or 色釉薬



布の上で粘土をたいたいて伸ばす。

左右に 17 mm のタタラ板をセットし、布を置きローラーでのす。

8 mm 分のタタラ板をはずし、切金で 2 枚に切る。

ヘラで表面をなめらかにする。



9 mm 厚粘土に径 26 cm 手ロクロの上にガム型紙をあて針で切る。テープの芯、石膏の型をのせる。

型に片栗粉をはたく。粘土を置く。



型に沿わせる。薄くならないよう注意。

出っ張った部分はスポンジをあてて型に沿わせる。

スポンジ枕をあてる。

板をのせ、ガムテープを持ちひっくり返す。



型を抜く。

8 mm 厚粘土に径 22 cm 紙型をあてふたを作る。

半乾燥後、縁をととのえる。

軽く面取り。





同様にふたの縁を整える。



ふたを合わせる時は新聞紙を一枚はさんでおく。



ふたの取っ手を作る。粘土をひも状にし、



たたいて平たくする。



ヘラの角を使ってすじをつけるなどデザインしてもよい。



取っ手をつける部分にキズをつける。



ドベをぬる。



取っ手をすり合わせて接着する。



本体につける取っ手を作る。



丸めてたたく。



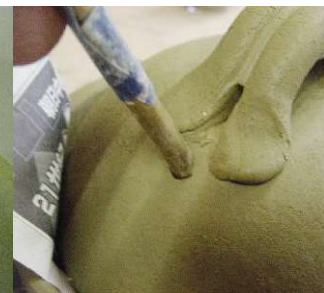
目安にヘラを置く。



キズ、ドベをつけてすり合わせて接着する。



指でならす。



ふたに空気穴をポンスであける。



サインをする。



乾燥後、素焼。



素焼後、ふたと本体が接触する部分にアルミ入り撥水剤をぬる。



空気穴に釉が詰まらないよう新聞紙を丸めて詰める。



本体の内側に釉薬を掛ける（ここでは白マット）。



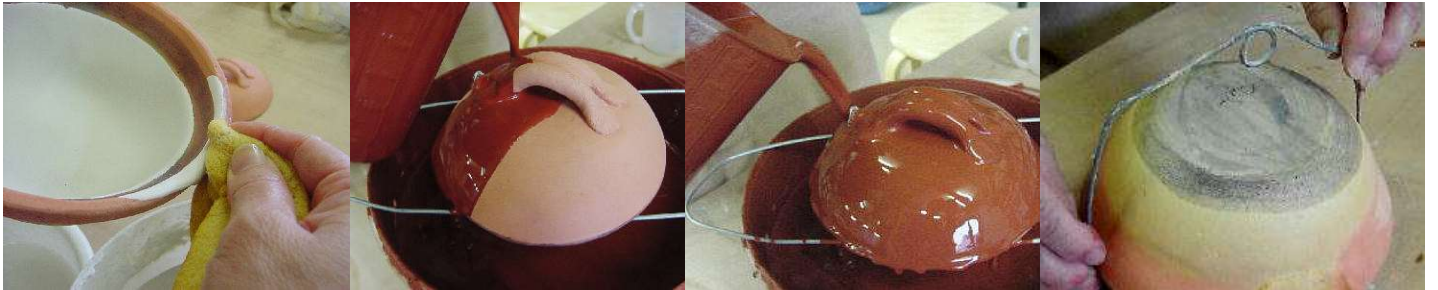


手早くぐるりと廻して釉薬を切る。

よく切る。

ふたの内側に釉薬をかける（白マット）。

ぐるりと廻して切る。



外側にたれたらスポンジで拭く。

針金を釉薬のタッパーの上に渡し、ふたの外側に釉薬を掛ける（ここでは鉄赤）。

本体の外側にも釉薬を掛ける。針金を引っ掛けて、



指でバランスを取りながら釉薬を掛ける。

掛けたいところまで沈める。

引き上げて余分な釉薬を切る。

掛け残した部分は筆でぬる。



撥水剤をぬった部分について釉薬をスポンジで拭き取る。

空気穴に詰めた新聞紙を取る。

違う釉（ここでは白マット）で刷毛目を入れる。

本焼は 1180℃なので土鍋焼成用の棚にメモを付けて置く。

### ワンポイントアドバイス

ペタライト入り粘土は、500℃までほとんど膨張しません。原理は耐熱ガラスと同じです。直火で陶板焼きにも使えます。